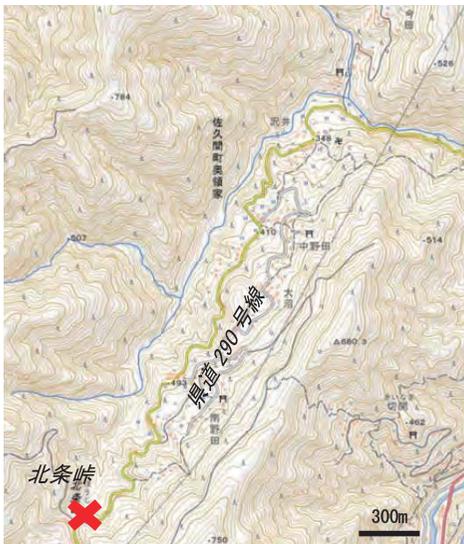


W031 中央構造線のケルンコル(静岡県GEO
DATA(25)特集：地学散歩(104))

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 楠, 賢司, 三須, 寛希, 加藤, 国雄 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00029297 |

W031 中央構造線のケルンコル



国土地理院 地理院地図（電子国土Web）

北条峠は、「ホウジ峠の中央構造線」として1994年3月25日に県指定天然記念物に指定された。

中央構造線は、静岡県内では、長野県との県境である青崩峠から南下し、浜松市天竜区水窪町－佐久間町佐久間－佐久間町浦川を経て愛知県新城市へと、次第に向きを西に変えながら続く。

写真は、佐久間町の北条（ホウジ）峠から北東方向を見た景色である。ここからは、山の尾根が不自然に凹んだケルンコル（断層鞍部）と呼ばれる地形を観察できる（写真中の赤色矢印）。これは、中央構造線の破碎帯が浸食されて形成された典型的な断層地形である。この中央構造線による谷地形は、ここ北条峠を通過し、峠の南西方向へ直線的に続いている。

中央構造線は西南日本の地質構造を外帯と内帯に二分している。ここから見える景色で言うと、ケルンコルの右側が外帯（三波川帯）で、その逆の左側が内帯（領家帯）である。（楠 賢司・三須寛希・加藤国雄）